

高瀬神社 社報

越中一宮



第52号

平成 29 年 1 月 1 日
撮影：南部スタジオ <http://www.takase.or.jp/>

越中一宮高瀬神社



年頭講話

「新しい年に思う」

宮司 藤井秀弘

新年明けましておめでとうございます。
います。

平成二十九年丁酉歳の年頭にあたり皇室の弥栄、国家の隆昌、氏子崇敬者各位のご多幸をお祈り申し上げます。

いつの間にか平成二十八年が終わり、平成二十九年がはじまって私は八十七回目の新年を迎えることになりました。おめでたいのか、そうでないのか複雑な気持ちですが、これまで長生き出来たことを大神様に「ありがとうございます」と申し上げて感謝するとともに、「いつまで御奉仕させてもらえるのだろうか」と思案しながら新年を迎えました。

平成二十八年は災害国「日本」と言いたくなるほど、多くの災害に見舞われた年でした。北海道を直撃した過去に例のない台風や、熊本、鳥取を襲った地震により、甚大な被害がありました。今年はそのような年になるのでしょうか。災害のない平穏な年であってほしい、また、被災地の一日も早い復興を神々に祈りつつ毎日を過

ごしたいと思っています。

年明けを迎えた誰もが、新しい年に大きく、素晴らしい希望を託されたことでしょう。これから始まる一年を希望実現にむけて努力しなければなりません。誰かが何かしてくれるだろうという「他力本願」のようなことでは、日数を重ねても実現不可能だろうと思います。また、他人がしたことや、言ったことを批判する、いわゆる「あげ足取り」とでも言うのでしょうか、そういうことはかりしている。と次第に世間から進歩と受けることがなくなっていくと思ってしまう。私たちは過去から連続と受け継がれてきた舞台の上で生活しています。それは自分一代で完成したものではなく、自分の両親や祖先が長い時間かけて形成してきたものです。それをあれこれ批判するのは簡単ですが、改善という行為があつて初めて進歩が生まれるのではないかと思います。自分の生きている今の舞台というものをあらためて見つめてみると、新しい年に個人的、また社会的に何

をすることが大切なのか知ることが出来るのではないのでしょうか。

現在、世の中は自分のためになるかのような発想が蔓延してきており、このような自己中心的な考え方で社会が形成されていくと、その社会は、特定の人だけが幸せと感ずる社会となり、その他の人々は幸せではない、いわゆる「格差社会」が生まれることになります。

では、どのように考えれば良いのでしょうか。

一人一人が自分と他人の幸せについて考えるとき、自分の幸せは、他人の幸せであると考えようになると、世の中は幸せで一杯になると思うのです。他人を思いやることのできるような世の中、「日本」をつくることができれば、災害復興や数々の社会問題が、より早く解決に向かうのではないのでしょうか。

いかに新しい年になろうと、時代が変わろうとも変わってならないことは、世のため人のために尽くすことです。他人と共感する意識を持ち、責任を持って発言、行動することが大切だと思います。

氏子崇敬者各位はもとより日本国民の幸せを切に願い、世界の平和を祈りながら今年も神明奉仕に励む所存であります。

平成二十九年(丁酉)年
皇紀二六七七年



宮司 藤井秀弘

権宮司 藤井秀嗣

禰宜 河合正登

権禰宜 長谷川宏幸

魚岸一弥

石渡和貴

今井茉莉奈

山下翔子

小倉南留美

井元梨恵子

中橋ゆきな

中井直美

藤井友希

中島璃子

上口友子

嘱託

支集殿
支配人
クラシナ



祭事暦

例祭(大祭)

九月十三日午前十時より例祭が斎行され、出雲大社千家隆比古権宮司、白山比咩神社村山和臣宮司をはじめ氏子・崇敬者約七十名が参列されました。昨年全国各地で被害が出た台風の影響が心配されましたが、例祭直前には雨も上がり、無事斎行できました。

御本社では宮司祝詞奏上の後、神楽「浦安の舞」の奉奏があり、続いて南砺市の女声コーラスグループ、ソット・ヴォーチェが先導する「越中一宮 高瀬



神社奉讃歌」を一同で奉唱しました。

引き続き功霊殿において、ご遺族約六十名参

列のもと例祭が斎行され、井波松風会による明治天皇御製「天」、乃木希典作「金州城下の作」の奉納吟がありました。参列者一同、英霊に感謝の誠心を捧げお参りいただきました。



〈奉納吟詠詩文〉

明治天皇御製 天

あさみどり
澄みわたりたる大空の
広きをおのが
心ともがな

【通釈】

さわやかなあさみどり色に澄みわたった大空の、そのはてしない広さを、わが身の心としたいものである。

金州城下の作

山川草木転た荒涼
十里風腥し新戦場
征馬前まず人語らず
金州城外斜陽に立つ

【通釈】

山も川も草も木も、すっかり荒れ果ててしまっている。戦いのあつたばかりのこの広い戦場には、どこもかしこも、血なまぐさい風が吹いている。あまりのわびしさに軍馬も進もうとせず、また、われ人とともにことばも無く、金州城外の夕日の中に、万感の思いで立ちつくすのである。



祭事暦

― 献穀田だより ― 拔穂祭・初穂曳奉仕



井波地域中核農業士協議会（柴田嘉久会長）主催により、献穀田奉耕者・谷川為晴氏の齋田にて、拔穂祭が齋行されました。

した。祭典は、九月十七日午後二時より、南砺市山見公民館前の齋田にて行われ、齋主祝詞奏上に続き、早乙女五名が黄金色に実ったコシヒカリを丁寧に刈り取りました。収穫された稲は、当神社の新嘗祭でお供えされたほか、十月



十七日、伊勢の神宮で齋行された神嘗祭に懸税（カケチカラ）として奉献されました。

十月十五日、このお祭りに先立ち行われた「初穂曳」に、奉耕者の谷川氏も参加され、全国の崇敬者と共に伊勢の町を練り歩き、無事に奉曳されました。



「初穂曳」に参加された谷川為晴氏



乗せたお木を初穂

早乙女の皆さん

- 箭原希美さん（中学生）
- 直江麻美さん（中学生）
- 森 柚葉さん（中学生）
- 横江咲希さん（中学生）
- 亀田侑佳さん（中学生）

新嘗祭（大祭）

十一月二十三日午前十時より新嘗祭が齋行されました。



祭典終了後、農業発展の為に寄与された篤農家表彰と、献穀田奉耕者、篤志奉納者に感謝状と記念品が贈呈されました。

収穫された新穀を神前に奉り、その恵みに感謝するお祭りです。当社社においても、氏子崇敬者・農業関係者約七十名が参列するなか、献穀田（南砺市沖）で収穫された玄米を奉耕者谷川為晴氏、白米を井波地域中核農業士協議会 柴田嘉久会長、白酒を同会 岩倉和弘稲作部長が神前に奉納し、五穀豊穣に感謝しました。

本年は、いなば農業協同組合 澤田謙三常務理事に、幣帛供進使としてご奉仕いただきました。

【篤農家表彰】

- 齋藤 忠信 殿
- 前田 健二 殿

【献穀田奉耕者】

- 谷川 為晴 殿

【篤志奉納者】

- 〔鞆鼓奉納〕
- 田邊 良三 殿
- 〔菊花奉納〕
- 寺西 孝志 殿



観月祭

越中五箇山民謡

九月十日、午後六時より観月祭を
斎行しました。祭典に続いて、南砺
平高等学校 郷土芸能部の皆さんによ
る五箇山民謡の奉納がありました。

「こきりこ節」や「麦屋節」など
四曲が奉納されたほか、参列者に民
俗楽器「こきりこ」や「ささら」を
手渡し、一緒に鳴らして、楽しい時
間を過ごしました。

とても高校生とは思えない素晴ら
しい演奏と踊りでした。



平成二十九年

祭事暦

一月 一日	歳旦祭
一月 七日	昭和天皇祭遙拝
一月 二十五日	天分神祭
二月 三日	節分祭
二月 十一日	紀元祭
二月 十七日	祈年祭
三月 八日	鎮火祭
三月 二十日	春季皇霊祭遙拝
四月 三日	神武天皇祭遙拝
四月 十日	春和祭
四月 二十九日	祈年穀祭
六月 十日	風宮例祭
六月 十九日	稻荷社例祭
六月 三十日	夏越大祓
七月 十六日	人形感謝祭
七月 二十一日	除熱祭
八月 七日	七夕祭
八月 十六日	中禮祭
九月 十三日	例祭
九月 二十三日	秋季皇霊祭遙拝
十月 一日	村まつり
十月 十七日	神嘗奉祝祭遙拝
十月 吉日	献茶祭
十一月 三日	明治節祭
十一月 十三日	神明宮例祭
十一月 十五日	七五三祝祭
十一月 二十三日	新嘗祭
十二月 二十三日	天長節祭
十二月 三十一日	師走大祓祭

◎毎月一日・十三日 月次祭
◎毎月十三日 交通安全祈願祭

村祭



十月二日、村祭を斎行しました。午後二時より子供神輿が高瀬の地を練り歩き、午後五時から、氏子雅楽会「鳳鳴クラブ」の演奏のもと、祭典を行い、その後、参集殿にて、氏子の皆さんによる踊り・太鼓の演奏が披露され賑やかに直会が行われました。



参拝者休憩所新設

老朽化したお手洗いを参拝休憩所として建替えることになりました。年末に完成し、平成二十九年初詣から使用されます。工事は株式会社藤井組に依頼しました。



※お手洗いは防犯のため夜間施錠します。

八乙女山風神堂遷座祭

古来よりこの井波地方では、冬が終わる頃から、五月初旬にかけて、強風「井波風」が吹き荒れます。この風は春の訪れを知らせる反面、被害を齎すこともあります。

女山に鎮座する風神堂の御神体の遷座祭を斎行し、完成まで当社でお預かりすることになっています。

今より千三百年前の養老元年（七一七）、越前の僧泰澄が八乙女山に止観寺を建立した際、人々に懇願され風神をお祀りする風神堂を建立しました。その後、室町時代の僧倬如が風神堂を再建し現在に至るまで厚く崇敬されています。

八乙女山には、その大風が吹き出すと伝えられる風穴があり、風神堂はその上に建立されていましたが、長年の風雪により、昭和五十六年に建てられた御堂も老朽化が進んだ為、新たに建立することになりました。そこで、十月二十七日、八乙





高瀬の英霊

(石岡外二命そとじ ②)

前五十一号にて石岡外二命の御事績についてご紹介しました。今号では、石岡外二命の墓誌をご紹介致します。墓誌には、前号の「故石岡三等主計兵曹殿の最後を偲びて」を記した「薄」第一分隊長 浅海六郎の文面が刻まれておりました。内容は、前号と重複している箇所がありますが、前号では、ご紹介出来なかつた記載もありましたので、ここにご紹介致します。

石岡外二命 墓誌

為故海軍三等主計兵曹
 勲七等石岡外二君略歴
 昭和五年、石岡外二君十八歳の時、呉海兵团へ志願して入団。同九年、上海事変の戦功に依り、勲八等及び従軍記章御下賜。同十年、満州国皇帝陛下御訪日警衛に服務し、記念章授らる。同十二年、日支事変勃発し君は駆逐艦薄に乗組し中北支の沿岸敵戦地に転戦し、航程一万五千哩に及ぶ武勲を建らる。同十三年九月二十八日十七名の戦士と薄内火艇に乗り込み、黄浦江の激浪中を突進したる際に、
 量■難に直面して、乗艇は沈没し外二君と他の三名は壮烈なる戦死を遂らる。嗚呼君は享年二十六歳、吾か海軍に永く不残の功績を遺して後輩を奮起せ

んと誓て吾等君の遺志に馳せん事を興す。

昭和十三年十月三日

薄第一分隊長 浅海六郎

先祖 石岡藤左エ門

昭和十四年十一月

二代 太一郎 建

三代 清治

一義

(現世帯主は石岡洋介氏)

※句読点を補い、片仮名の箇所は平仮名に改め、正字は新字に直しました。判読不明の文字は■で表記しました。

なお、今回の翻刻に当り南砺市埋蔵文化財センター学芸員 山森伸正氏にご協力頂きました。此の場をお借りして厚く御礼申し上げます。

杜のにぎわい

剣道大会

「第五十四回 奉納剣道大会」が九月十九日、敬老の日開催され、南砺・砺波・小矢部各市の小中高校生約二〇〇名が日頃の鍛錬の成果を十分に発揮すべく、試合に望みました。

大会は生憎の雨となり、例年の「野試合」の形式とは異なり、南砺市立井波小学校体育館にて行われ、団体戦と個人戦ともに熱戦が繰り広げられました。

試合結果は次の通りです。

〈団体の部〉

▽小学生男・女

- ①井波剣道スポーツ少年団
- ②砺波市剣道スポーツ少年団

▽中学生男子

- ①井波中学校
- ②庄川中学校
- ③庄西中学校

▽中学生女子

- ①庄西中学校
- ②出町中学校

〈個人の部〉

▽小学生男子

- ①中井 将馬 (井波)
- ②松川 穂高 (井波)
- ③寺脇 輝 (井波)



▽小学生女子

- 吉澤 僚大 (砺波)
- ①石川 絢菜 (井波)
- ②横川陽夏羽 (井波)
- ③高橋 奏乃 (井波)
- 夏梅 望早 (砺波)

▽中学生男子

- ①神田 涼汰 (井波)
- ②篠原 一星 (井波)
- ③板戸 基樹 (庄川)
- 幸山 大 (井波)

▽中学生女子

- ①田中 真尋 (井波)
- ②湯浅 彩夢 (福光)
- ③川島三沙希 (庄川)
- 正力 小暖 (庄西)

▽高校生男子

- ①山本 泰斗 (砺波)
- ②石黒 康祐 (砺波工)
- ③南 享佑 (南砺福野)
- 広田 智 (南砺福野)

▽高校生女子

- ①扇割 加奈 (南砺福野)
- ②藤森 美希 (南砺福野)
- ③廣島 麻矢 (砺波)
- 埴山 唯珠 (砺波)

献茶祭

十月十六日、第四十三回 献茶式（主催・高瀬神社 献茶奉賛会）が行われました。祭典では、祝詞奏上の後、表千家流・城宝義光氏が心を込めて点てられた濃茶・薄茶がお供えされました。

また、参集殿にて茶席が設けられ、茶道愛好家の方々が晩秋の一品を楽しまれました。

午後より、使い古した茶筌に感謝の気持ち捧げる茶筌焼納祭を茶筌塚前に行いました。



里芋おはぎ茶会

十一月二十七日、南砺市井波地域特産の里芋を使ったおはぎを味わう茶会、「第二十回 里芋おはぎ茶会」が行われました。

例年好評のこの茶会では、薄茶席と香煎席が設けられ、里芋の風味を生かしたおはぎと、心尽くしの一服が味わえます。また、待合室には「芋洗い水車」なども展示され、終日多くの人で賑いました。



団体参拝日誌抄（平成二十八年八月～十一月）

八月

●十四日 庄川中学校

第三十四回同窓会

九月

●十日 志波彦神社・鹽竈神社

総代会 研修旅行



●二五日 飛騨考古学会

十月

●十三日 JANAなごや千種支店

年金友の会

●十六日 櫛田仏教婦人会

●十九日 大門高校生徒遠足

●三十一日

小矢部市遺族会研修会



十一月

●十二日 本郷神社奉賛会

●三十日 熱田神宮豊年講

あいち豊田支部



団体参拝のご案内

古来より様々なご縁を結ぶ福の神・結びの神である大國主命（大國様）をおまつりする当社では、会社の参拝（安全祈願・創業記念日）、必勝祈願、同窓会記念参拝等の各種団体の祈願を受け付けております。

お問い合わせは社務所へお願いします。

電話〇七六三（八二二）〇九三二

同級生と厄祓

同窓会や里帰りに合わせ、同級生との「厄祓」を受け付けております。

年頭にあたり、ご友人とお揃いでご祈禱をお受け下さい。

期間 二月三日 節分まで。

午前九時から
午後四時三十分まで。

祈禱料 五千円よりご志納

願います。

宝物殿ご案内

昨年、南砺市埋蔵文化財センターにて開催された「越中一宮高瀬神社 宝物展」にて展示された宝物も併せて展示しました。ご参拝の際は、どうぞご覧下さい。



開館日時

事前に社務所へお問い合わせ下さい。

電話〇七六三（八二二）〇九三二

拝観料 無料

平成29年 厄年・身祝一覧

〈厄年〉 数え年

	前 厄		本 厄		後 厄	
男	24歳	平成6年(戌)	25歳	平成5年(酉)	26歳	平成4年(申)
	41歳	昭和52年(巳)	42歳	昭和51年(辰)	43歳	昭和50年(卯)
	*60歳	昭和33年(戌)	*61歳	昭和32年(酉)	*62歳	昭和31年(申)
女	18歳	平成12年(辰)	19歳	平成11年(卯)	20歳	平成10年(寅)
	32歳	昭和61年(寅)	33歳	昭和60年(丑)	34歳	昭和59年(子)
	*36歳	昭和57年(戌)	*37歳	昭和56年(酉)	*38歳	昭和55年(申)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。
 ※*…この年を厄とする地域もあります。

〈身祝〉 数え年

	年齢	生まれ年
還暦	61歳	昭和32年(酉)
古希	70歳	昭和23年(子)
喜寿	77歳	昭和16年(巳)
傘寿	80歳	昭和13年(寅)
米寿	88歳	昭和5年(午)
卒寿	90歳	昭和3年(辰)
白寿	99歳	大正8年(未)

※男女ともに祝います。

戌の日 (安産祈願)

1月11・23日
 2月 4・16・28日
 3月12・24日
 4月 5・17・29日
 5月11・23日
 6月 4・16・28日

腹帯のお祓いも行いますので
 ご持参下さい。



二月三日 午後三時齋行
 節分祭 (豆まき)

授与しますので、ご家族お揃いで、是非ご参列下さい。

就学安全 祈願祭

今年ご入学される児童・生徒の皆様、おめでとうございませす。新しい学校生活が、今から待ち遠しいですね。

立派に成長されたお子様の晴れ姿を大神さまにご覧頂きまして、これまでの成長に感謝し、益々の健康・学業成就をお祈りされてはいかがでしょうか。

どうぞ新しいランドセルや学生カバンなどを持参され、ピカピカの制服姿でお越し下さい。

期間 春分の日より
 四月三十日まで
 午前九時から
 午後四時三十分まで
受付 ご祈祷入口からお入り下さい。



「全国一の宮めぐり」をしてみませんか?

- 新ガイドブック
1000円
- ガイドブック
1000円
- 御朱印帳(小)
1000円
- 御朱印帳(大)
3000円

「一の宮」は全国に約一〇〇社あります。平安時代、各地域で古くから崇敬を集め、神位も高く、由緒正しい神社が「一の宮」として定められました。

「御朱印」はこのような神社を参拝し、各神社にお祀りされている大神様の御神徳をいただく為のものです。時間をかけて自分流に全国の「一の宮」を巡ってみてはいかがでしょうか。

奉納

○「初穂米」

氏子

岩倉 勲殿

氏子

寺西 雅典殿

立山町半屋

村木 謙一殿

岐阜県関市

小石 達人殿

○「雅楽用鞆鼓」

氏子

田邊 良三殿



○「菊花」

氏子

寺西 孝志殿

国華金山

国華大宝

国華越山

国華瀬音

国華大社

国華の愛

泉郷明星

泉郷寿水

泉郷丸木舟

彩湖優美

南砺アイスベルク

南砺トワイライト

イエローワイン



○「神饌米」

南砺市

井波中核農業士
協議会 殿

奉耕者

氏子

谷川 為晴殿

氏子

岩倉 和弘殿

○「金一封」

氏子

岩倉 久範殿

○「千支(西)大絵馬」

南砺市山下

南部 榮殿

富山市古鍛冶町

大谷美術学園

園長 大谷 弓子殿

砺波教室の皆さん



新嘗祭・幣帛供進使と表彰者の皆様

○「千支絵」

小矢部市鴨嶋

森川 外茂男殿

○「日章旗」

氏子

大和 彌壽夫殿

編集後記

新年明けましておめでとうございます。
新しい年は諸々の悪いことが
サリ(申)、大空にはばたくトリ
(酉)のように飛躍の年にしたい
ものです。

本年もよろしくお願い致します。

社報バックナンバー

当社ホームページで

ご覧頂けます。

〔表紙写真〕

千支(西)大絵馬と

大谷美術学園の皆さん

発行日 平成二十九年一月一日

発行所 越中一宮 高瀬神社社務所

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291

TEL 0763-82-0933 FAX 0763-82-3304

編集人 魚岸 一弥

印刷所 牧印刷株式会社

結びの杜の神前式



日常を隔てる境内で、参進の儀にはじまり
社殿に響き渡る雅楽の調べのなか、厳かな神前式が叶う
大国様の「結び」の御神徳により、両家の絆も強く結ばれる

一日一組のプライベート空間

◆◆ 新参集殿 ◆◆

すべては一組の新たな夫婦の幸福のために



只今ご予約受付中

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社 検索